

科目番号	52171	分類	実践助産学	履修者	高度実践助産コース	学年	1-2 配当セスター 通年		
科目名	助産実践力強化演習 (Exercise for Advanced Midwifery skills)								
担当者	〇戸津有美子 他3名		区分	助産師プログラム	必修	単位	3	時間数	90
授業の概要および目標						学位授与の方針との関連			
<p>〔概要〕 助産実践力向上のため、妊産褥期の女性と胎児の超音波画像評価能力と、周産期における緊急時の母子への対応に必要な知識と技術の習得を目的とする。</p> <p>〔目標〕 1) 成人女性の正常な子宮、卵巣、卵管、膣（以下、骨盤内臓器とする）および胸部（乳腺）の超音波画像の評価ができる。 2) 妊娠期・分娩期・産褥期にある女性の正常な骨盤内臓器の超音波画像の評価ができる。 3) 胎児の発育と well-being、胎児付属物の画像評価ができる。 4) 授乳期における乳房の正常な超音波画像の評価ができる。 5) 緊急時の母子に対応するために必要な助産実践能力を向上できる。</p>						○	1.自律して自然分娩の支援ができる能力		
						○	2.院内・院外助産システムを担うことができる能力		
						○	3.女性の生涯にわたる健康を支援できる能力		
						○	4.周産期の救急時に対応できる能力		
						○	5.他職種と連携・協働し、質の高い助産ケアを提供できる能力		
						○	6.研究・開発能力		
						○	7.倫理的意思決定能力		
<p>3. 方法</p> <p>1) 超音波画像評価演習場所および時期 場所：東京医療センター 外科乳腺科外来での演習、 講師：産婦人科医師、松井哲医師、</p> <p>2) 産院での助産外来又は日本助産師会産後ケアセンターにおける講義および演習</p> <p>3) 周産期における緊急時の母子への対応に必要な知識と技術の習得 ALSO プロバイダーコースの受講</p> <p>4. レポート</p> <ul style="list-style-type: none"> 演習前に自己技術評価指標を作成 演習後「自立した助産師に向けて必要と考えるスキルについて」のレポート 									
事前・事後学習	事前学習:各回の必携図書で該当する部分を読んでくる。 事後学習:配布資料を復習する。また、場合によってはレポートを課す。 単位と時間数に応じた学習時間（学生便覧参照）を参考に組み込むこと。								
評価の方法	演習への参加及び事前学習状況(50%)、課題レポート(50%)など、総合的に評価する。 フィードバックは適宜行う。								
参考図書 ・資料等									
備考	オフィスアワーについては、学生便覧を参照し、教員と日程調整をする。								